

令和2年度第2回の学校評価アンケートの実施に際しまして、ご協力ありがとうございました。アンケートの集計ができましたのでお知らせいたします。
学校では、成果と課題を明確にし、課題に対しては改善策を考え取り組んでまいります。また、皆様からいただきました貴重なご意見を3学期及び次年度の学校教育に生かしてまいります。今後ご支援、ご協力をお願いいたします。

令和2年度 第2回学校評価一覧表

評価の 観点	評価項目 【各項目の評価 (A+B) が100%であること】	評価者			
		職員	家庭	地域	児童
やさしく	返事や挨拶がしっかりできる	91%	95%	100%	95%
	人の気持ちを感じて行動できる	100%	87%		93%
	感謝の心で人や自然に接することができる	100%	95%		100%

評価の 観点	評価項目 【各項目の評価 (A+B) が100%であること】	評価者			
		職員	家庭	地域	児童
かしこく	夢の実現に向けて、意欲的に学習する	91%	95%	100%	100%
	学びを生活に生かし、自ら考え、判断し、表現する	91%	86%		95%
	人や自然に学び、創意・工夫する	91%	90%		95%

評価の 観点	評価項目 【各項目の評価 (A+B) が100%であること】	評価者			
		職員	家庭	地域	児童
たくましく	運動に親しみ、健(すこ)やかな身体と康(やす)らかな心を鍛える	82	90%		81%
	失敗や困難に負けず、強い心で何事にも取り組む	73%	81%		81%
	危険を予測し、主体的に判断し、命を守る行動がとれる	100%	81%		100%

※A+Bの割合を%で示しています。

本年度の努力点についての評価 No.1

評価の 観点	評価項目 【各項目の評価 (A+B) が100 %であること】	評価者			方 策	評価	成果と課題	3 学期の方策
		職員	家庭	地域				
確かな学力の向上	指導体制や指導方法の工夫・改善を図り、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。	100%	100%		・昨年度のCRTの問題等を演習でさせるなど活用する。 ・「南牧小スタンダード」を取り入れた授業を継続して行い、児童の知識・技能の定着に努める。	A	○昨年度のCRTの問題を学期末の復習の時間などを使い、活用することができた。 ○「南牧小スタンダード」と「はばたく群馬の指導プランⅡ」とを関連付けた資料を提示し、「南牧小スタンダード」を取り入れた授業を意識することができたが、共通の課題がある。	・引き続き、過去の問題を十分に活用する。 ・業前「算サuntime」を設け、算数の基礎基本問題に取り組ませて、知識・技能の定着に努める。 ・「南牧小スタンダード」の中から、校内研修で取り上げられた「教師の発話量」「子ども同士の対話」を課題として捉え、改善する。
	体験的な学習や問題解決的な学習を効果的に取り入れ、思考力・判断力・表現力等の知識・技能を活用する力の向上に努める。	100%	100%		・学校再開後における教育課程の編成に沿った年間指導計画で計画的に学習を進める。 ・タブレットを効果的に活用し、知識・技能を活用する活動を充実させていく。	A	○県で示された学校再開後における教育課程の編成に沿った年間指導計画で、計画的に学習を進めることができた。 ○校内研修を中心にタブレットの効果的な活用方法を共有することができた。また、タブレットを使った外部での修学旅行発表など、児童の活動を地域に周知することができた。	・引き続き、学校再開後における教育課程の編成に沿った年間指導計画で、計画的に学習を進める。 ・効果的なタブレットの活用方法や、活動事例を、次年度に繋がるように、共有する。
	自ら考え学び合う児童主体の授業実践に努め、学びに向かう力・人間性の涵養に努める。	100%	100%		・児童の実態に合わせた課題設定を継続して行い、児童が思考する時間、児童の思考を促す指導を充実させていく。	A	○児童の実態に合わせた課題設定を行うよう努めた。児童が思考する時間、児童の思考を促す指導に関しては、充実させる必要がある。	・引き続き、児童の実態に合わせた課題設定を継続していく。 ・「主体的に学習に取り組む態度」に繋がる「めあて」「振り返り」になるような授業の充実を図る。また、振り返りに繋がるための教師の発問から、自力解決、集団解決の場面をつくり、思考の時間を充実させる。
	「みんなのやくそく」の実践により、学習習慣・学習規律の定着を図る。学力向上計画の組織的な取組に努める。	100%	100%		・「みんなのやくそく」「話し方」「聞き方」の掲示物を使用するなどして、継続的に振り返らせ、引き続き指導する。 ・1学期の児童・教師アンケートをもとに、授業改善を行い、学力向上に努める。 ・学年経営会議等で、学力向上に繋がる資料などを提示し、共通理解を図る。	A	○「みんなのやくそく」「話し方」「聞き方」の掲示物を使用し、必要に応じて振り返り、指導の継続ができた。	・学期の始めに改めて、「みんなのやくそく」「話し方」「聞き方」を確認する。掲示物を使用して、継続的に振り返らせる。
向 上	「学力向上重点項目」をもち、学力向上に努める。	100%			・「家庭学習の手引き」を活用して家庭と連携を図り、家庭学習の習慣化に努める。	A	○「学力向上重点項目」をもとに、授業実践を行うことができた。 ○ブロック代表授業、一人一授業を行い、授業検討会、授業研究会等工夫をし、充実した研修を行うことができた。	・2学期の児童・教師アンケートをもとに、3学期の取組の共通理解を図り、授業改善を行い、学力向上に努める。 ・校内研修での成果と課題をもとに、次年度に繋がるような授業改善に努める。
		100%	95%			A	○家庭学習コーナーの充実を呼び掛けることにより以前より多く更新することができた。 ○懇談会、Webページ等で、家庭に周知することができた。Webページで家庭学習の取組を知らせたが、頻度に関しては課題がある。	・マルチ漢字学習法などの学習法を知らせ、家庭学習の選択肢を増やす。 ・Webページを活用し、よい取組例を家庭に知らせる頻度を多くする。 ・児童の実態を把握し、児童によっては、学習項目を指定するなど含め、適切な声掛けをすることで、家庭学習の充実を促す。
豊かな心の育成	人権教育及び道徳教育を核として心の教育の充実に努める。	91%	95%		・「人権週間」を通して、さらなる心の教育の充実を図る。	B	○「人権週間」では、人権擁護委員による人権講話や人権アンケートなど、機を捉えて、心の教育の充実を図ることができるようになってきた。	・強い心で何事にも取り組める児童を育成するために、ブロックごとの道徳教育をさらに充実させていく。
	積極的な生徒指導と児童の心に寄り添った教育相談に努める。	100%	95%		・児童の良い行いを全校に広げるために、「みんなのやくそく」を基にし、認める、ほめる指導を全校体制で徹底する。	A	○全校体制で人権週間（キラキラ発見など）に取り組んだことで、児童の良い行いを広げることができるようになってきた。	・担任が生徒指導や教育相談で得た情報を、職員で確実に共有し、同一步調で指導にあたる。
	よりよい人間関係づくりを基盤とした学級経営に努める。	100%	95%		・児童の社会性を育てるために、事後指導（代表委員会で話し合った課題と解決策の掲示など）も充実する。	A	○事後指導の充実を図った結果、児童が「よりよい学校づくり」のために主体的に考え、行動することができるようになってきた。	・児童の心に届く、教育相談により一層努める。
	自己目標をもち、自己理解・自己実現を図るキャリア教育の充実に努める。	100%	95%		・キャリアパスポートを書いたままにせず、振り返る機会を意図的・定期的に設ける。	A	○学期ごと、行事ごとにキャリアパスポートを記入させ、自己理解を図ることができるようになってきた。	・1年間の振り返りや次年度への意欲を持たせる指導を各学級で充実させていく。
	特別支援教育の視点に立ち、一人一人に応じた指導・支援の充実に努める。	100%	95%		・担任はもちろんのこと、教科担当とも個別の支援計画の内容の共通理解を図る。	A	○個別の支援計画を活用したことで、どの職員も一人一人に応じた指導・支援が充実してきた。	・来年度に向けての個別の支援計画の引継ぎを確実に行うために、各担任が個別の支援計画の作成を計画的に進める。
成	小さな変化を見逃さず、不適応や問題行動の早期発見・早期対応に努める。	100%	100%		・問題を発見した際の、指導・報告の流れを改めて確認し、早期対応を図れるようにしていく。	A	○毎月のいじめアンケートを実施した際に、指導・報告の流れを確認したことで、全職員が早期対応を図ることができた。	・今まで同様、生徒指導情報を各担任が入力し、それを全職員で共有していく。

本年度の努力点についての評価 No.2

評価の 観点	評価項目 【各項目の評価（A+B）が100％であること】	評価者			方 策	評価	成果と課題	3 学期の方策
		職員	家庭	地域				
健やかな体づくり	体力向上プランの組織的な取組に努める。	100%	95%		・職員間の共通理解を図り、引き続き体力向上を目的にした活動を取り入れる。	A	○新体力テストの結果が1学期より2学期実施の記録の方が良くなった。学校評価も90％以上ということから評価は得られた。	・新体力テストの結果から、体育部で話し合い、今後の課題を職員間で共通理解を図り、引き続き体力向上を目的にした活動を取り入れる。
	食育や健康教育の充実・家庭との連携により、基本的な生活習慣の定着に努める。	100%			・2学期末に向け感染症等流行時期に入る前に、さらなる基本的生活習慣の定着をはかり、自らの健康を自分で守れるよう、働きかけていく。	A	○学校保健委員会の取組を通して、コロナ禍における生活習慣や心身の健康について深く考えることができた。	・今まで同様、継続できるよう、冬休みの生活チェックの結果等を活用しながら家庭と連携し、さらなる基本的生活習慣の定着を図る。
	安全教育、防災教育の充実により、危険予知能力、危険回避能力の育成に努める。	100%			・1学期の訓練での課題点を改善できるよう、安全主任を中心に組織的に取り組む。	A	○学校評価では良い結果が得られた。安全主任を中心として、安全点検や登校班、野生動物への安全対策を適宜児童・保護者に伝えることができた。	・今後も安全主任を中心として、安全点検・安全対策を組織的に取り組む。特に、3学期では路面凍結も十分に考えられるため、安全な登下校ができるよう指導していく。
活 力 あ る 学 校 づ く り	学校教育目標実現のために、本校の実態に応じた特色ある教育課程のマネジメントに努める。	100%			・学校での取組や児童の様子を家庭・地域に伝えられるよう、定期的なWebアップを行っていく。	A	○学校評価の分析を行い、担当ごとに改善策を練り、実行することができた。また、本校の取組の様子をWebで発信し、地域にも伝えることができた。	・課題に対する方策を示し、学校での取組や児童の様子をWebを通して発信し、本校の特色ある取組を家庭・地域に伝えていく。
	互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努める。	100%			・職員同士の交流をさらに図ることで、互いに高め合えるようにする。	A	○学校行事や校内研修等で、職員同士の交流があり、児童への関わり方を学ぶことができた。	・学校行事や校内研修に留まらず、日頃から職員同士の交流を深めることで、さらに刺激し高め合える職員集団を目指す。
	人事評価制度を適切に活用し、学校経営への参画意識を高めるよう努める。	100%			・経営方針とリンクした目標達成に向けた実践を図る。	A	○校内研修に関わる一人一授業の実践を通して、教員の授業力向上が図れた。	・資質向上研修と関連させ、教職員相互の情報交換を充実する。
	服務規律の確保を徹底する。	100%			・一人一授業や参観授業等を通して、目標達成状況の管理職による確認を行う。		○授業後に管理職から面談指導を受けることを通して、取組の成果や課題を確認することができた。	・管理職や教員同士による授業参観を日常化し、授業力のさらなる向上を図る。
	服務規律の確保を徹底する。	100%			・非違行為の根絶に向けて、機を捉えながら服務規律を確保をするよう、互いに呼びかけ合うようにする。	A	○服務規律の確保に向けて、一人一人がチェックポイントを振り返ることで、教育公務員として自覚し、責任をもって職務を遂行することができた。	・県内・県外に関わらず、教職員が関わる非違行為の事案が発生した場合には、職員にすぐに周知し、非違行為が起こらないように、本校で発生したと仮定して、当事者意識をもち、未然防止に努める。
	校内研修を核として職員研修の充実を図り、教職員の指導力向上に努める。	100%			・授業研究会で出た意見や改善点を次に生かせるよう、ポイントをまとめ共有化を図る。	A	○研究授業前の指導案検討や模擬授業を通して、授業や参観時のポイントを共有でき、実りある研修を行うことができた。	・研究授業前の模擬授業を次年度も継続して行う。
安全 安心な 学校 づくり	校務の精選と効率化による業務改善の推進と勤務時間の適正な管理に努める。	100%			・職員のスキルに合わせた指導方法の共有化を図る。		○一人1授業の参観を通して、スキルに応じた指導ポイントの共有化が図れた。	・南牧小スタンダードについての研修を、資質向上研修として行い、全職員が同一歩調で指導を行えるようにする。
	学校安全マニュアルの共通理解により、危機管理の徹底に努める。	100%			・仕事に軽重をつけたより効率的な働き方の推進を図る。	A	○仕事の軽重を意識したことで、効率的な働き方を推進することができた。	・会議、研修等の時間縮減に向けて、サイボウズの掲示板を有効活用していく。
	学校施設整備や通学路の安全点検を徹底し、問題点への迅速な対応に努める。	100%			・互いに声を掛け合い、時間を意識した業務を行う。		○時間を意識したことで、勤務時間の適正管理が図れた。	・さらに職員が働きがいを持てる環境づくりに努める。
	適切な予算執行により、教育環境の整備・充実に努める。	100%			・地域、外部との連携を重視し、管理職との共通理解を図る。	A	○避難訓練を通して、避難経路等の見直しを図ることができた。	・新たに協議された内容を取り入れ、次年度に向けて安全マニュアルの作成を行っていく。
地域とともにある 信頼される学校づくり	学校施設整備や通学路の安全点検を徹底し、問題点への迅速な対応に努める。	100%	100%	100%	・臨機応変に対応ができるよう、いくつかの案を考えておく。	A	○行事の内容を雨天時の場合を想定し、速やかに対応することができた。	・登校班会議で児童から出た危険箇所の把握を教職員で共通理解を図る。
	適切な予算執行により、教育環境の整備・充実に努める。	100%			・修復・修繕が必要な場合、事務と連携を取り速やかに対応を行う。	A	○毎月の安全点検を期日内に配布・回収をすることができた。	・修繕箇所の優先順位を管理職と相談し、速やかに対応できるよう声掛けを行っていく。
	適切な予算執行により、教育環境の整備・充実に努める。	100%			・期日内回収ができるよう声掛けを逐一行っていく。		○修繕が必要な場合は速やかに事務に報告し、対応をすることができた。	・来年度の予算執行を見通しながら、計画的に有効かつ効率的な教材調達を行い、教育環境の整備・充実に引き続き取り組んでいく。
	学校安全マニュアルの共通理解により、危機管理の徹底に努める。	100%			・管理職と連携を取りながら、引き続き教育効果を考慮した予算執行を行う。	A	○予算執行を教育効果を考慮しながら、管理職と連携し適正に行うことができた。	
	学校施設整備や通学路の安全点検を徹底し、問題点への迅速な対応に努める。	100%			・補助簿に基づき予算執行確認を迅速に行い、村への早期要求を実施する。		○計画的に補助簿を確認し迅速に教材調達を行い、村教委との連携が図れた。	
地域とともにある 信頼される学校づくり	めざす子ども像を学校、家庭、地域と共有し、連携・協働した教育活動を推進する。	100%	95%	100%	・学校運営協議会を軸として、三者が連携した教育活動を計画していく。	A	○2回行われた学校運営協議会において、学校での取組や地域との連携について意見交換を行い、連携した教育活動への取組の下地を作ることができた。	・連携した教育活動を実践していくための活動計画を作成する。
	学校評価・学校運営協議会を活用し、学校課題を把握し改善を図る。	91%			・第1回学校評価の成果と課題を生かした学校課題の改善を行う。	A	○2回の学校評価を通して、学校課題を明確にすることができた。学校、家庭、児童が抱えている課題を早急に改善していくための手立てを講じていく必要がある。	・明確となった課題を全職員で共有し、改善策を考え、早急に実行していく。
	学校Webページや各種通信等により、積極的な情報発信に努める。	100%	95%	100%	・学校課題の共有と2学期の方策の着実な実施を図る。	A	○どの学年も、更新を定期的に行ったことで、家庭・地域に情報発信することができた。	・今まで同様、家庭・地域への旬な情報発信を行う。
	地域人材や施設・自然の活用を通して、地域のよさを生かした教育を推進する。	100%	100%	95%	・学年における更新頻度のバランス化を図っていく。			
	地域人材や施設・自然の活用を通して、地域のよさを生かした教育を推進する。	100%	100%	95%	・学校運営協議会との連携を推進し、地域人材の発掘を進める。	A	○黒滝山への巣箱かけ、運動会の鼓笛指導等、地域の人材や自然を活用し、学習を進めることができた。また、学校運営協議会に学校要望を伝えることができた。	・学校運営協議会との連携をさらに推進し、地域人材の発掘を進める。
地域とともにある 信頼される学校づくり	保育園や中学校との連携を推進し、幼児教育及び義務教育9年間の系統性ある教育活動に努める。	91%			・校内研修における小中間の授業参観を実施し、系統だった指導に生かす。	A	○中学校との兼務職員が6年生の社会の授業を担当し、系統だった指導を行うことができた。	・中学校へのスムーズな移行を図るため、6年生の中学校での授業参観、部活動体験を行う。
	保育園や中学校との連携を推進し、幼児教育及び義務教育9年間の系統性ある教育活動に努める。	91%			・低学年と保育園との交流授業を通して、保小の連携を密にしていく。			・小学校入学への意欲を高められるよう、新入児一日入学の際、児童による学校紹介を行う。